

# MDF基材の一部床材、新規受注停止

## 受注増と基材調達が遅延

大建工業

大建工業（大阪市、億田正則社長）は15日、MDFを基材に使用する一部の床材（カタログ掲載の複合フロア）の新規受注を一時停止した。既に受注済みの複合フロアの供給を優先するとともに、さらなる混乱を回避することが狙いだ。再開時期は「現時点では未定だが、木質素材の安定調達や安定供給の見込みが立ち次第、再開する予定」（同社）という。

今期に入って同社の複合フロア受注は前年を上回っており、特に9月以降は前年を大幅に上回る注文が入った

ため、増産体制を組んで対応してきた。その幅に減少し、生産に支障をきたす状況になった。加えて、コロナ禍のため、複合フロア基材のMDFやエコ合板（国産針葉樹合板、植

使用する一部の複合フロアの安定供給が困難となり、今回、新規受注を一時停止することとした。

新規受注を一時停止する製品は、天然木床材「フォレスティアJ A/J M」「フォレスティア床暖房タイプ」「フォレスハード」「フォレスナチュラル」「フォレスナチュラル床暖房タイプ」。特殊加工化粧シート床材（基材「ハピアフロアト

レンドウッド柄」。リフォーム用床材（基材「MDF6<sup>3</sup>」厚単層）「エクオスファイイン6 T」「ハピアフロア6 T」「ハピアシック柄」「フォレスティア6 T」。今後の対応として、

「MDF調達は、通常マレーシアから日本の工場まで約1カ月で到達するが、現在は中国や台湾でコンテナが滞留しているため、2・5・5カ月掛かる状態になっている。これを回避するため、急遽マレーシアからチャーター便を手配し、来年1月中旬ごろにはMDFが入荷する予定。滞留しているMDFも1月以降、順次入港する予定で、できるだけ早期に安定供給の体制を構築し、新規受注を再開したい」（同社）という。